



阿波西人権新聞

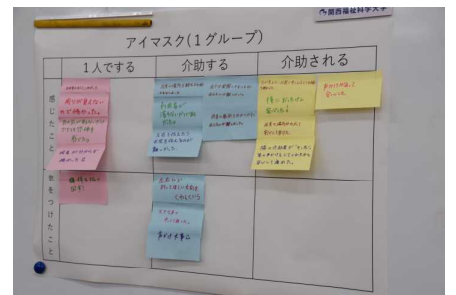
27号 令和5年3月24日発行
阿波西人権委員会および
社会問題研究部

第2学年 人権学習ホームルーム活動 研究授業

- 日時 令和5年1月24日(水) 5・6限
- 場所 多目的ホール
- 主題 「共生社会について考える」
- 指導者 第2学年団(ファシリテーター:松永 彩加 教諭)

2学年では毎年1回、ワークショップによる人権学習研究授業を実施し、連携中学校の先生方にも参観していただいています。今回は、「共生社会について考える」をテーマに、車椅子や白杖などの体験を通して障がい者や介助者への理解を深め、障がい者やさまざまな人たちが生活しやすい社会にするために必要なことや自分たちにできることなどを考えました。体験を通して感じたことをもとに班で話し合い、班ごとに発表し、意見を共有しました。

そして、障がいのある人もない人も、ともに生活し、社会参加できる共生社会を実現するためには、日頃から一人ひとりが他者の立場に立って考え行動することが大切であることを学びました。生徒たちは、体験や話し合いに真剣に取り組み、活発に意見を出しあっていました。(人権教育課)

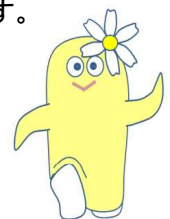


《生徒の感想》

- 白杖の体験では、どこに何があるかわからず、介助する人の肩を持っていないと本当に怖かったです。声かけや肩を貸してくれるだけで安心して進むことができました。介助する側は声だけで伝えないといけないので、左右など詳しく伝えることや、視覚障がい者の歩くペースに合わせて進むことが大切だと思いました。
- 今回の授業を通して、困っている人がいたら声をかけ、自分のできるかぎりのことをして助けたいと思いました。誘導ブロックの上に自転車や物が置かれていたら移動するなど、日常生活でも自分のできることをしていきたいと思いました。
- 介助する側の体験で気がつけたことは、大きな声で相手を見ながら話をすることです。これからも介助する機会があるときは、相手が安心できるような対応をしたいと思います。
- 今回の授業で、障がい者の人が日常生活でどういう思いをしているのかを少し知ることができました。今回体験したことをふまえて、点字ブロックの上に立たない、駐車場の車椅子マークがあるところには駐車しない、など自分のできることを考えて行動していきたいと思いました。
- 日常の中にも誰もが住みやすい工夫もされているけれど、緊急の時は皆が皆を助け合いながら生きていける共生社会になればよいと思いました。体験を通して感じたことを忘れず、生活していく上で何かの助けになったり、社会に必要とされる人になりたいと思いました。

★毎月16日は「人権の日」です。今年度、「人権の日」で取り上げたテーマは次の通りです。

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 4月 「人権について」 | 11月 「同和問題について」 |
| 5月 「ハンセン病と人権について」 | 12月 「子どもの人権について」 |
| 6月 「感染症と人権について」 | 1月 「障がい者の人権について」 |
| 7月 「人権と平和について」 | 2月 「女性の人権について」 |
| 9月 「日本人拉致問題について」 | 3月 「子どもの人権について」 |
| 10月 「インターネットによる人権侵害について」 | |



第1学年 人権学習ホームルーム活動

- 日時 令和5年1月18日(水) 6限
- 主題 「インターネットによる人権侵害について」
- 指導者 各HR担任



インターネットの普及により、情報収集や情報発信が簡単にできるようになり、私たちの生活が便利で快適なものとなっています。しかし、その一方で、人権侵害や人間関係のトラブルなどの問題が増えていることも事実です。今回の授業では、SNSのトラブルの事例から、どのようなことが問題なのかを考え、他者の気持ちを考えたメッセージの発信の仕方や適切なコミュニケーションの取り方について学び、これから自分自身がSNSを利用するときに気をつけなければならないことについて考えました。そして、加害者にも被害者にもならないために、インターネットを正しく活用することや、互いの人権を守ることの大切さについて学びました。また、1人1台タブレット端末を使ってグループで活発に意見を出しあい、互いの意見を共有しました。(人権教育課)



《生徒の感想》

- ◆ わかりやすく誤解が起こらないような文で返信するよう気をつけなければならない。ネットなどに書き込むときはしっかり考えてからにしようと思った。
- ◆ 自分も時間がないときに適当に返してしまうことがあるので、あらためて、相手の気持ちを考えてメッセージを送るようにしようと思った。
- ◆ インターネット、SNSを使うときは、読む人の気持ちを考えて文章を書くことを意識する。誤解を招く言い方は使わないようにする。
- ◆ LINEなどでも何気ない一言で傷つくこともあるということがわかった。お互いが相手を思いあいながら伝えることが大切だと思う。
- ◆ 別の意味にまちがわれるような言葉はできるだけ使わないようにしようと思った。

令和4年度「中・高生による人権交流集会」が開催されました

〈令和4年12月17日(土) 徳島県教育会館〉

徳島県教育会館に県内の多くの中・高生が集まって、「中・高生による人権交流集会」が開催されました。

まず全体会では、大阪府で在留外国人の支援活動などをおこなっている三木幸美さん(とよなか国際交流協会)による「私からはじめる私たちの多様性社会」と題した講演が行われました。フィリピンと日本のハーフとして生まれ、8歳まで無戸籍児だった自身の経験や、在留外国人が「法律・制度の壁」「言葉の壁」「心の壁」で困っていること、私たちができることとして「受け止めるキャッチャーになる」ということについてお話しくださり、多文化共生社会を築いていく上で「相手の気持ちを考える(想像する)」ことが大切であるということをお話してくださいました。続いて分科会に分かれ、第1分科会(中部ブロック主催)では「同和問題について考える」、第2分科会(西部ブロック主催)では「貧困と人権 ～自分らしく生きるためには～」、第3分科会(南部ブロック主催)では「ジェンダー」についてのテーマ学習が行われました。この会に向けて各ブロックで準備してきたことをもとに、活発な意見交換やワークショップが行われました。阿波西高校の社会問題研究部が参加した第2分科会では、日本の貧困問題やそれに関連するさまざまな社会問題について学び、「受援力」(必要なときに適切な支援とつながる力)の大切さについて、グループ討議やロールプレイを通して考えました。

「中・高生による人権交流集会」は毎年12月中旬に開催されていますので、興味のある人は来年ぜひ一緒に参加しましょう！(社会問題研究部)

